

マイ・リトル・ブライド

2008(平成20)年3月12日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★



監督=キム・ホジュン/出演=ムン・グニョン/キム・レウオン/パク・ジヌ/キム・イン
ムン/ソン・ギユン/ソヌ・ウンソク/ハン・ジニ/キム・ヘオク/アン・ソニョン/シ
ン・セギョン (エスピーオー配給/2004年韓国映画/117分)

特集

熱狂的ブームの去った今こそ真価を問う！

……ムン・グニョン主演の韓国版“おくさまは16歳”(?)は、楽しさいっぱいのラブコメディ！ とくにセーラー服オタクは必見……？ 韓国の婚姻制度、家父長制度、兵役の義務、教育実習制度などをしっかり勉強しながら、きっと「想定範囲内」の感動的なラストを味わおう。



『おくさまは18歳』+『おさな妻』の韓国版……？

日本には『おくさまは18歳』という人気テレビドラマがあったが、これはラブコメディの典型。また、かつて関根恵子(現在の高橋恵子)が主演した『おさな妻』(70年)という名作があったが、その主人公は高校生。

『マイ・リトル・ブライド』は、いわばこの両者をミックスした韓国版“おくさまは16歳”。なぜならこれは16歳の高校生がおさな妻となるラブコメディだから。



新人賞ダブル受賞のラブコメを今！

その主人公ボウンを演ずるのは、この映画で大鐘賞新人女優賞を受賞した最高にキュートな女優ムン・グニョン。私が彼女を『筆筍』(03年)ではじめて観た時はそれほど強い印象はなかった(『シネマルーム6』108頁参照)が、『マイ・リトル・ブライド』では、1987年生まれの彼女の若さと魅力が炸裂！

他方、プレイボーイの大学生パク・サンミンを演ずるキム・レウオンを観るのはこれがはじめてだが、ケンカばかりしながらいつも妹分のボウンを温かく見守っている幼なじみの兄貴分としての魅力と存在感をバッチリと表現している。したがって、彼が大鐘賞新人男優賞を受賞したのも当然。

「ムン・グニョン特集」として2本立てで観た『ダンサーの純情』（05年）は結構重たいテーマを背負った感動作だったが、『マイ・リトル・ブライド』は明るく笑って楽しめるラブコメディ。さあ、韓国版“おくさまは16歳”をタップリと楽しもう。

韓国でも女は16歳で結婚可……？

現在日本では、憲法改正手続を定めた国民投票法が投票権者を18歳以上としたことを契機として、民法上の成年年齢を20歳から18歳に引き下げることについての検討が開始されている。他方、婚姻適齢については一貫して①男は18歳に、女は16歳にならなければ、婚姻をすることができない（民法731条）とされ、ただし②未成年の子が婚姻するには、父母の同意を得なければならない（同法737条1項）とされている。つまり女は16歳でも親の同意があれば結婚できるということだが、この映画を観ている限りそれは韓国でも同じ……？

韓国では、今なお家父長制が……？

高1で16歳のボウンに対して大学生のサンミンとの結婚を強引に勧めたのは、ボウンの大好きな祖父（キム・インムン）。何でもサンミンのおじいちゃんと親友だった彼は、必ず子供同士を結婚させようと約束したのだそうだ。ところが、残念ながら子供が男ばかりだったので、もう先は長くないと知ったボウンの祖父は、自分の孫のボウンと親友だったおじいさんの孫のサンミンを何としてでも結婚させようとしたわけだ。こんなところには、今なお強く残る韓国の家父長制の色がありありと……。

両親は？ 本人たちは？

こんな突然の申し入れにサンミンもボウンも戸惑ったのは当然。とくに高1で16歳のボウンが結婚なんて考えられなかったのは当然。まして子供の時からケンカ相手だったサンミンとの結婚なんて「絶対イヤ！」と感じたのも当然。

ところが、こんな祖父の策動（？）に賛否両論を抱えつつ両家の両親が乗ったから、16歳のボウンはもちろん、社会経験のないサンミンもまんまと乗せられてしまうことに。もっともボウンの学校では彼女の結婚は絶対内緒とされたが、サンミンはもともとプレイボーイだから、どこかに新婚旅行先でのお楽しみや新婚生活でのお楽しみに期待している面も……？ しかし、ボウンの両親はボウンに対して、大学を卒業する

まではその方面は厳禁！　ときつく言い渡したし、ボウンはもちろんそのつもり。

そんな2人の新婚旅行と新婚生活のコメディぶりが、この映画のウリの1つ！

これって不倫……？

高1で16歳の女の子なら憧れの先輩がいても当然。そしてそれは、往々にしてカッコいいスポーツマンというケースが多い。ボウンもそうだったようで、そのターゲットは野球部の主将イ・ジョンウ（パク・ジヌ）。

ボウンからの積極的なモーションにジョンウはイチコロだったが、これにはボウンと同じようにジョンウに目をつけていた親友の女の子ヘウォン（シン・セギョン）から抗議の声が。普通なら三角関係となり男の子の奪い合いになるところだが、内緒で結婚していることを教えているヘウォンのこの場合の抗議は、「あんたの場合は不倫よ！」というもの。なるほど、これって不倫かも……？

韓国にも教育実習が……？

サンミンは美術を学んでいる大学生だが、韓国には兵役義務の他、教師になるためには日本と同じように約1カ月間の教育実習という制度があるらしい。

この映画が後半突如ドラマティックな展開になる（？）のは、サンミンの教育実習先がボウンの高校とされたため。2人の結婚を知っているのは校長先生と親友のヘウォンだけだが、そんな風に2人の距離が縮まるとひょっとして何かとまずいことが起きるのでは……？　そんな予感がしたのは私だけではないのでは……。

サンミンはモテモテだが……

ボウンがサンミンの魅力をどのように分析していたのかは知らないが、サンミンがカッコいい男であることは客観的にみて明らか。すると、女子高にこんな大学生が教育実習に赴いたら、女子高生からはもちろん独身の女先生からもモテモテ……？　プレイボーイのサンミンがそんな期待を抱いていたかどうか知らないが、現実には私が予想したとおりに……。もっとも、言い寄ってきた女教師が、ボウンの担任でオールドミスのキム・セム（アン・ソニョン）だったのは大きな誤算で、就任早々サンミンはセムによってさまざまな女難（？）に見舞われることに。

他方、ケンカ相手であり夫であるサンミンがこんな風にモテモテとなる姿を目の当



DVD 発売中、価格：¥5,040（税込）、販売元：エスピーオー



© Korea Pictures, Culture Cap Media 2004

たりにしたボウンの、微妙なオンナ心の動きは……？

🎬 試練を乗り越える中に真の愛が……？

世の中には理不尽なことがいっぱいあり、いじわるされることもよくあるもの。そしてそれは、学校の中も同じ。しかも女の恨みは怖い。ましてやオールドミスの逆恨みはもっと怖い。そんなことを思い知らされるのは、サンミンとボウンが結婚していることを知り、結局サンミンから振られてしまったと認めざるをえないセム先生が生徒たちの学園祭の役割分担を決めるについて、メイン舞台の背景画をボウンが1人で描くように命じたこと。そんなもの1人でできるはずないじゃない、とボウンは思ったが、さてその後の展開は……？ この映画はそんな終盤からラストに向けて、それまでのラブコメディ風から、がぜん大人の愛の姿が登場する（？）からご注目！

完成した大舞台の背景画は、たくさんの木に囲まれたブランコの絵。ブランコに乗っているのは1人の少女。そして、ブランコを押しているのは少し年上の男の子。さて、この絵柄の意味は……？ また、ボウンがあるところで発見したある手紙とは……？ 16歳の女子高生でも、さまざまな試練を乗り越えていく中で真実の愛を発見していくことができるものだ実感する、クライマックスのハッピーエンドにまっしぐらだ！

2008(平成20)年3月14日記